

シンポジウム・企業見学会 (2011年11月21日 於: NEC 玉川ルネサンスシティホール)

電子情報通信分野におけるワークライフバランスの現状と課題

(参加人数: 80人 (第一部, 第二部), 34人 (第三部))

第一部 (講演会) 司会: 大柴小枝子氏 (京都工芸繊維大学)



開会挨拶「電子情報通信学会における男女共同参画の現状」

電子情報通信学会男女共同参画委員会委員長荒川薫氏 (明治大学)

開会にあたり、主催者である男女共同参画委員会の経緯、活動内容の説明があり、当シンポジウムもその活動の一環として開催されていることの説明があった。

また、委員会の活動を通して、会の発足当時に比べると女性会員は増加が見られるが、役員数は未だ増加していないなど、当学会における男女共同参画の現状の説明があった。

特別講演 I 「企業における女性活躍推進とワークライフバランス」

リコーITソリューションズ (株) 取締役会長執行役員 國井秀子様



リコーグループにおけるワークライフバランスおよびダイバーシティに対する取り組みを紹介していただいた。女性支援等の制度を作ったとしても活用されなければ意味がないため、制度の改善を進めていること、また女性が結婚や出産後も仕事を続けられるだけでなく、活躍できるようにすることが重要であるため、女性の育児休暇からの復帰支援を積極的に行っていることの紹介があった。

特別講演 II 「工学系イノベーションの男女共同参画モデルー東京都市大学の意識改革に向けて」

東京都市大学女性研究者支援室長 小川順子様

東京都市大学が行っている女性研究支援のためのプログラムを中心に、同大学の取り組みについて紹介していただいた。女性教員数を積極的に増加させるための〈プラスワンプロジェクト〉や助成研究者の裾野を広げるための〈科学と友達プロジェクト〉など、幅広い取り組みであり、〈ロールモデル発掘プロジェクト〉では、スーパーロールモデルではなく、身近に感じられるロールモデルを女子学生等へ紹介するなどの工夫が披露された。



特別講演Ⅲ 「学術研究におけるワークライフバランス」

東京大学名誉教授 明治大学客員教授 原島博様



女性の問題と思われがちなワークライフバランスに対し、「ワークライフバランスの本質は男性の問題である」との視点から、今後の学術界のあり方についてご講演いただいた。対象を学術研究者に限った場合、任期制や補助金制度の改革とともに、「研究者は、研究一筋でなければ一流にはなれない」という意識を改革していくことが必要であること、またその改革のための考え方をご披露いただいた。

第二部 パネル討論「ワークライフバランスへの取り組み」



司会：石川悦子氏（富士通）

パネラー：小川賀代氏（日本女子大学）、神門典子氏（情報学研究所）、澤邊知子氏（NTT 未来ネット研究所）、原崎秀信氏（NEC）

討論に先立ち、各パネラーよりご自身のワークライフバランスへの取り組みや経験についてご紹介があった。その後、ワークライフバランスに関連するいくつかの調査結果を元に意見交換を行った。



第三部 企業見学会

シンポジウム終了後、会場となった NEC において企業見学会を行い、オフィスのエネルギー消費を抑える取り組みについて紹介いただいた。最新技術の利用、きめ細かな制御、自然光の活用に加え、社員の意識改革のために様々な仕組みを取り入れていることが実際のオフィス現場で紹介された。